

令和2年度

児中版 家庭学習のてびき

（国語・数学・社会・英語・理科）



倉敷市立児島中学校

「勉強しよう！」と思っても、勉強の仕方がわからないという人もいます。そこで、皆さんに少しでも役立ててもらえればと、「児中版 学習のてびき」を作成しました。家で机に向かって、「さて、何をしようか」と思った時に、ぜひこのてびきを活用して下さい。「継続は力なり」「思い立ったが吉日」です。「家でこんな勉強したよ。」「家でやったけどこの問題よくわからなかったから教えて下さい。」そんな反応を待っています。

宿題の取り組み方について

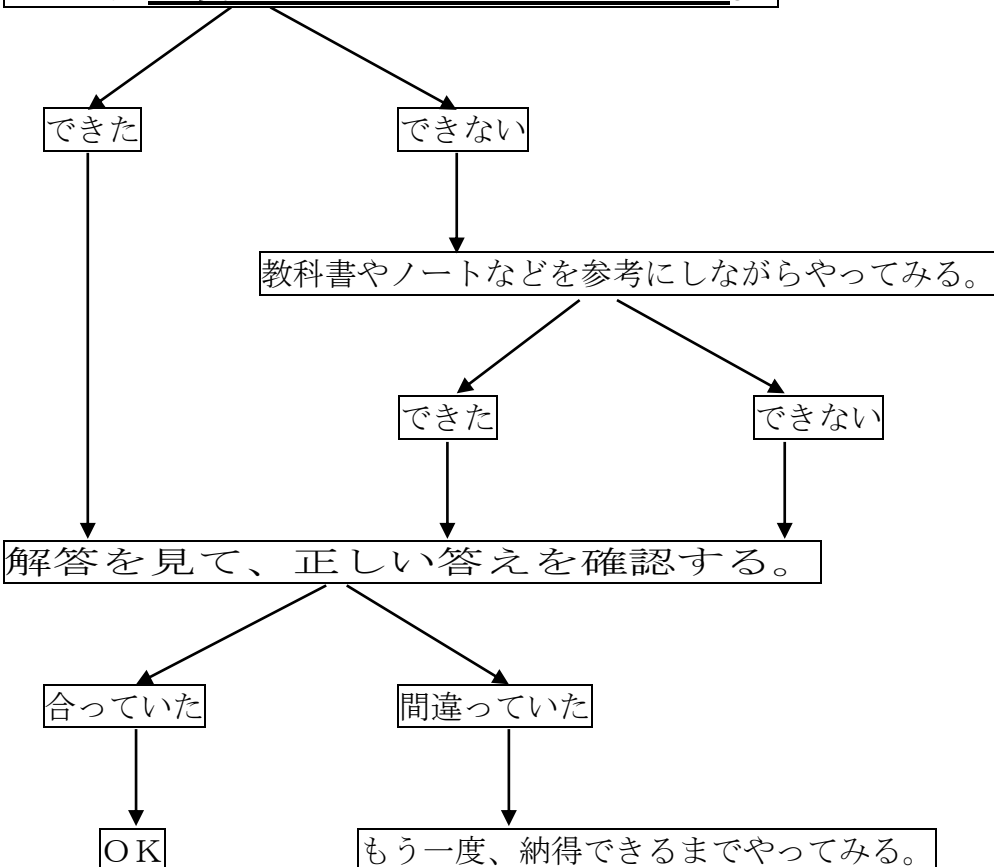
1. 単語や漢字を書くなどの作業的なものの場合

○ていねいな文字で書きましょう。

○発音や意味を思い浮かべたり、つぶやいたりしながら「覚えるぞ」という気持ちをもって書きましょう。

2. 問題を解く場合

まず、**自分の力だけでやってみる。**



1 まず、国語の学習でつきたい力を意識しましょう。

- ・感じとる力
- ・考える力
- ・社会生活を送る力

2 そのためには、次の3つを意識して学習しましょう。

- ・感覚をみがく。
- ・考えを深める。
- ・「ことば」によって人間が豊かになる。

3 学習の後で、

- ・学習した漢字や語句を使うように心がけましょう。
- ・発展学習として、その作者の他の作品や、関連する作品を読みましょう。
- ・本や新聞を、興味をもって読む習慣をつけましょう。

4 では、具体的に、家庭学習でできることは何でしょうか。次のようなことが考えられます。

①漢字のテキストを予習、復習のつもりでしていく。

- ・漢字が苦手だと思う人は、
片方のページを見ながら、「そう書くのか」「そう読むのか」など、「知ることは楽しいこと」と思いながら、一画一画をはっきりとおぼえるように、書いていく。
- ・ちょっと自分をきたえてみたい人は、
まず、数分間で、一段（12か13くらいの漢字がある）だけの読み・書きをおぼえる。
次に、片方のページをノートなどで隠して、小テストだと思って、解く。
最後に、オープンにして、赤ペンで丸つけをする。
残りの段も同様にする。

②漢字ノートに、自主勉強として、繰り返し練習していく。

ただ、漢字のテキストをするだけでは、なかなか漢字がおぼえられないのは、すでにみなさんが実感しているとおりです。

せっかく練習する気になったのに、ちゃら字でだらだらと1行書くだけでは、意味がありません。単なる作業になってしまい、おぼえられないまま自己満足で終わってしまいます。

③教科書をゆっくり声に出して読んでみる。

国語の力は、まず読むことから始まると心得ましょう。

昔の人は、「読書百遍、意、自ずから通ず」と言いました。

(どんなにむずかしい本や文章でも、なんども繰り返し読めば、意味は自然にわかってくるものだ。という意味です。)

・古典では、特に何度も音読することが大切です。歴史的かなづかいを小さいかっこの中の現代かなづかいに直しながら読むことによって、かなづかいが自然と頭に入ってくるようになります。

・説明文では、「まず」「しかし」「だから」などの接続語を意識しましょう。

・物語では、人物のせりふや表情を表す言葉から、気持ちを推理しましょう。

④その日のノートやプリントなどを開いて、5分間で授業をリプレイしてみる(早送り)。

見ながら、内容を思い出してみましょう。

色ペンでポイントに印をつけて、おぼえこむようにしましょう。

わかりにくいことが出てくれば、辞書で調べたり、先生や友だちに聞いたりしてみましょう。

⑤ワークブックをていねいに、教科書を開いて解いてみる。

友だちの答えや正解を写して「出せばいい」という姿勢では、力は全くつきません。必ず、自分の力でやりましょう。定期考査には同じような問題が出ます。

・意味調べコーナーは、最初は時間がかかるかもしれませんが、国語辞典で調べましょう。反対語や例文も目を通しておくと、言葉が自分のものになります。

・穴うめ問題では、その前後の言葉を本文から探して、その近くから字数に合う答えを見つけましょう。

・「例」とある模範解答がいずれ書けるように、自分の答えにない言葉やフレーズを、赤ペンで、空いたスペースに書いておきましょう。

以上、5つの家庭学習を提案してみました。

**まずは、机の前に座って、やってみませんか？
自分の力を、自分で伸ばしていきませんか？**

数 学

数学を学習するにあたって

数学は、「積み重ねが大事である」とよく言われます。基礎・基本がしっかりしていないとなかなか上達しません。毎日繰り返し練習することで力をつけていきましょう。

数学で大切なことは、学習を通して筋道を立てた考え方や見方を養い、それをいろいろな問題に活用できるようになることです。一つの問題を解くにも「他に考えはないだろうか」と頭をめぐらせながら学習していきましょう。

受け身にならず、前向きに取り組みましょう。間違ってもいい、失敗したっていい、自分から問題を解決しようとする気持ちが大切なのです。

特に3年生は1・2年生の学習をさらに進め、発展的な学習をするとともに、中学校で学習したことの総まとめをする学年です。授業では1・2年生の公式などをよく使います。早いうちに復習しておきましょう。また、時間をかけて取り組まなければならない問題がでてきます。分からないところを次に持ち越すことはできません。早めに質問をして、理解するようにしましょう。

家庭学習の進め方

1. 宿題をする

- 教科書やノートを利用しながら、自分の力でやり、指示された日(次の授業)に持ってくる。
- 答えがある場合は、答え合わせして、間違いを訂正し提出する。もちろん点数もつける。
- 返されたプリントは必ずファイルにとじておく。すぐに処分することのないように。

※宿題は学習した日のうちに必ずしよう。

※提出期限を守ろう。

2. 復習をする

- 教科書やノート、授業で使ったプリントなどを活用し、授業を振り返る。
- 授業で学習した問題や教科書の問題をもう一度解いてみる。
- 間違えたところは、暗記するくらい復習する。
- 「難しかったところ」「できなかったところ」はやり直して解決しておく。

※鉄は熱いうちに打て！復習はその日のうちにするのが鉄則です。

3. ワークやプリントをする

- ・ワークやプリントなどで、同様の問題をやってみる。

4. 教科書で予習をする

- ・教科書を見て、大切だと思ったところにラインをひいたり、付箋を貼ったりする。分からないところを確認し、印などを付けておく。(分からないところは授業中説明をしっかりと聞いて理解するようにする)

※問題意識をもって授業に臨むための準備にしよう。

勉強の仕方

- ①自分で考え、自分で解く(人に頼らず、まずは自分の力で)
 - ②粘り強く頑張る(教科書やノートなどを見て調べる) 悩むことも大切
 - ③質問する(それでもわからないときは、先生や友だちに教えてもらう)
 - ④見直しをする(間違えたところは、必ず正解を書き、どこを間違えたかを確認する)
- ※途中の計算を書いておく習慣をつける(答えを出すために計算した筆算なども)
→解き方があっていのかどうかの確認、どこを間違えたのかの確認
- ※間違えた問題を消しゴムで消さない(後で見たときに確認しやすい)
→数学は、どこで間違えたのかを、追求するのが最も大切。間違えた問題には、必ずチェックを入れておこう。そしてテスト前の復習に役立てよう。

テスト前の学習

- ・教科書やノートを繰り返し見直す。
- ・とにかくひたすら問題を解く。(テスト範囲内の問題は全て解いて、できるようにしておく。ワークやプリントの問題は少なくとも2回は解いておく)
- ・解き方や公式を理解し、分からない場合は先生や友だちに聞いて理解しておく。
- ・提出物がある場合には、余裕をもって仕上げる。

ワンポイントアドバイス

<1・2年生のみなさんへ>

- ・プリント、ワークなどで様々な問題を多く解き、問題に慣れよう。
- ・毎日少しずつでも計算問題のトレーニングをしよう。

<3年生のみなさんへ>

- ・数学の公式は繰り返し使って覚えるようにしよう。
- ・文章題は、同じ問題や似た問題を問題集などで解いてみよう。
- ・計算問題は速く正確にできるようにしよう。
- ・複合問題や総合問題にも計画的に取り組み、いろいろな問題に挑戦しよう。

<数学が苦手な人へ>

- ・教科書の例題をできるまで何回もやってみよう。(覚えることが大切)
- ・毎日10題ずつ計算問題をやってみよう。(計算ができるようになると数学が好きになって得意になります)

<数学が得意な人へ>

- ・難しい問題に自分からどんどん取り組んでいこう。(学校で学習したことだけに満足せず、難問に挑戦しよう)

<さらに数学の力を伸ばすには>

- ・生活の中での数量関係に関心をもとう。
- ・パズルやクイズなどを通して、発想の転換や柔軟な考え方を鍛えよう。
- ・問題集を選ぶときは、解説が詳しく書いてあるものを選ぼう。また、問題集に答えを書かずに、ノートなどに書いて、何度も繰り返してできるようにしておくとう効果的です。
- ・教科書や授業の中で興味をもったことを調べて、まとめてみよう。
- ・早く解けるようになるために、時間を決めてどこまでできるか挑戦してみよう。
- ・自分で問題を作って解いてみよう。

努力は人を裏切りません。頑張りましょう！！

1 やってほしいこと

(1) 授業を大切に

- ・授業準備をそろえる …教科書、ノート、資料集、ワークブックなど
- ・板書内容をきちんとノートにまとめる、自分なりの工夫ができるとなおよい
- ・先生の話をしっかり聞く

(2) 予習と復習（学校の業間で／家で） *一例

- ・(予習) 授業で扱う内容（教科書など）に事前に目をとおしておく
- ・(復習) 授業で学んだことを確認する（その日のうちに）
…例：教科書を読み直す、授業で「大事だよ」と先生がおっしゃったところに線を引く

(3) 宿題に取り組む

- ・ワークやプリントの宿題は、まずは自力でどこまで解けるかやってみる
- ・できなかった問題に印をつけておく（こうしておくことで後から確認しやすくなる）
- ・答え合わせを丁寧にする。空らんにしてしまったり調べてもわからなかったりした問題は答えをきちんと書き込んで、それでも理解が難しい場合は後日先生に質問するとよい
- ・特に記述問題（文章で答える問題）になかなか手がつかない人がいる。文章を書く練習をしないとなかなか記述力は向上しないので、ねばり強く取り組むこと（空らんにならない）

2 テスト勉強の仕方

(1) 小テスト（授業中に実施するもの）

- ・宿題に取り組んでいる人は基礎力はあるということ
→宿題のうちで「理解が不十分な問題」の見直しをしておく（印をつけておくとうよい）
- ・小テスト実施後の復習もしっかりと

(2) 定期テストや課題テスト

- ・「宿題」や「小テストへの準備」で努力・工夫したことの積み重ねが大切
- ・テスト前には多くの場合、範囲表が示されるので、しっかりと確認しておくこと
…（おすすめ）まずは提出物（ワークブックやノート整理など）を済ませる
- ・(テスト後は) 直しをしっかりと

3 3分野（地理・歴史・公民）それぞれのポイント

（１）地理的分野（主に１～２年生で学ぶ）

- ・世界のさまざまな地域のようにすや日本の各地方の特ちょうをつかむ
- ・「資料」（地図・データ（統計資料）・グラフなど）に注目する
- …資料の読み取りは練習あるのみ、さまざまな種類の資料をしっかりと読んでみよう

（２）歴史的分野（主に１～３年生で学ぶ）

- ・日本の歴史を中心に、現代の社会がどのようにしてできてきたのかを理解する
- ・基本的な内容を押さえた上で、年表をつかって流れを確認するとよい

（３）公民的分野（主に３年生で学ぶ）

- ・現代の社会で起こっていること（世の中のしくみや現状など）を学ぶ
- ・ニュース等で取り上げられていることが授業でもきっと登場するはず

英語 家庭学習の手引き

★これだけは絶対しよう！

復習(必ず、自分の力でワークやプリントを解く。答えを写すのはやめましょう。)

(できなかった所ができるように、教科書やノートを見直そう！)

★英語力が伸びる3つの「や」

①やる気

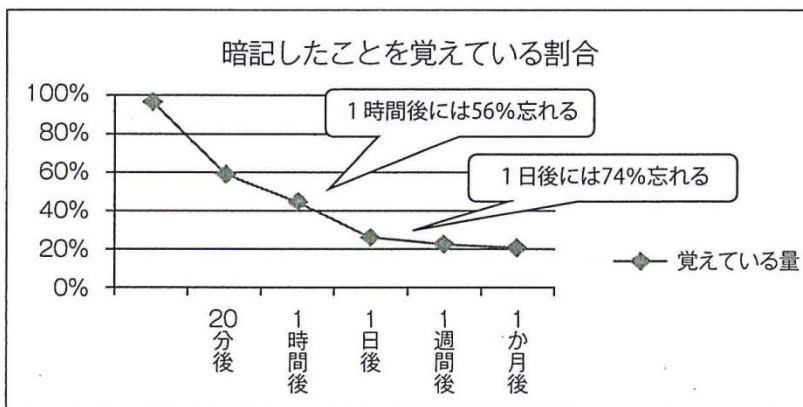
上達するためには、まずやる気が大切です。勉強する環境を整えて取り組みましょう。

②やり方

「できないことを、できるようにする。」「自分の力で取り組む。」この2点を大切にしましょう。「とにかく、やればいい。」という考え方はやめましょう。単語を何回書いても、覚えようとして書かなければ、覚えられません。ワークの答えを写して、とにかく提出すればいいという考え方もダメです。自分が何が理解できていて、何が理解できていないかが分かるための、家庭学習です。上達するためには「やり方も」大切です。

③やり続けること

学習内容を身につけるには復習が不可欠です。復習しないと忘れてしまいます。ドイツの実験心理学者、エビングハウス(1850～1909)が示した忘却曲線を知っていますか。内容をまとめると、次のようになります。



【忘れる割合】
20分後：42%忘れる
1時間後：56%忘れる
↓
この後、少し忘れる割合が緩やかになり、
↓
1日後：74%忘れる
1週間後：77%忘れる

For Self-study ①

単語の世界を広げよう

●単語を覚えるとき、どうしていますか。声に出す、たくさん書く、動作と一緒に覚える…など、覚える方法はいろいろあります。単語の知識は、英語を聞く・話す・読む・書く、つまり英語を使うすべての基礎になります。いろいろな方法を組み合わせて、単語を学んでいきましょう。

1 身近な例に置き換えて書いてみよう

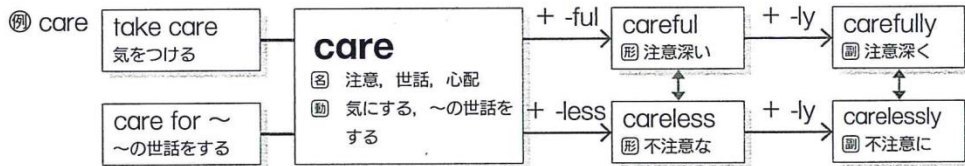
単語は、実際の文の中で読んだり聞いたりするとよいですが、さらに自分に関係するエピソードに置きかえるとより印象的に覚えられます。例えば encourage という単語なら、友達に励まされたエピソードなどを書いてみると、思い出しやすくなります。



I was **encouraged** by my friend, Takuya.

2 ネットワークやリストを作って覚えよう

単語1つをそれだけで覚えるより、単語を関連づけて覚えると、だんだん単語のネットワークができていきます。似た意味、反対の意味の単語や、関連する単語を調べるときには辞書が便利です。



3 くり返して覚えよう

覚えるためには何度もくり返すことが必要ですが、ただやみくもにくり返すのではなく、方法を工夫しましょう。

学習した
次の日



覚えた単語や例文を書いたり、
意味を言ったりできるか試す

④ ④ ④
間隔をあける
(3日後～翌週)



もう一度試す

④ ④ ④
間隔をあける



他の単語もまとめて
思い出せるか試す

4 好きなことばや言いたいことばを集めよう

「この日本語が好き。英語ではなんて言うのかな。」「英語の歌のこのフレーズ、カッコいいな。」気になることばは覚えやすいはず。好きなことばリストをどんどん増やしていきましょう。



For Self-study 2

いろいろな英語学習法

- 1人で机の上の教科書と向き合うだけが学習ではありません。英語を学ぶにはいろいろな方法があります。自分に合った方法が見つかるといいですね。



日記を書こう

英語でその日あったことを少しでも書いてみましょう。だんだん英語を書くことに慣れていきます。だれかに読んでもらいたくなったら、カードや手紙を書くのもいいですね。



くり返し学習しよう

単語を目につくところに貼る、メモ帳や単語カードを持ち歩く、朝や寝る前の10分間で教科書を音読するなど、短い時間を活用してみましょう。くり返しふれることで、英語が身につきます。



映画や音楽の英語を聞いてみよう

好きな映画や音楽なら何度見ても聞いても飽きませんね。字幕や歌詞をチェックして、気になったら辞書で調べてみましょう。カッコいいフレーズに出会ったら、丸ごと覚えるのもいいでしょう。



英語の本を読みましょう

英語の本というと難しそうですが、まずは絵本から始めるのはどうでしょうか。知っているお話や小さいころに読んだ絵本も、英語で読むと新たな発見があります。



(NET) ALTの先生と話してみよう

休み時間や放課後を利用して、ALTの先生と会話をしてみましょう。言いたいことが言えなくても、また練習して再チャレンジ！次は何を話そうかな、と会話が楽しくなりますよ。



友達と競い合おう

仲間がいると、刺激になるものです。覚えた単語や英文の数を友達と競ってみましょう。休み時間にクイズ形式で単語や英文を言い合うのも楽しいですよ。



Q. なぜ理科を学ぶの？

A. 理科を学習する意義はいくつかあります。

- 1 身の回りの自然や現象のしくみを発見する
- 2 「なぜ？どうして？」と考える力を身につける
- 3 テストや受験に出るから

人によって学ぶ理由は様々ですが、自分で意識して、目標をもって学習に励んでもらえると嬉しいです。

Q. 理科の授業をどうやって受けたらいいの？

A. 授業中に先生の話した言葉や理科の専門的な語句が分からないときは、すぐに教科書やノートを見直しましょう。一番良いのはその時に挙手などで質問することですが、人によっては恥ずかしいと思ってしまうかもしれません。ですが普段の授業でもっとも大切なことは、「なぜ？どうして？」という気持ちで授業に取り組むことなのです。

実験中はどんなことが起こるのか、ドキドキワクワクしますよね。普段の授業でもノートを写すという作業を中心にするのではなく、「不思議だな」という気持ちで色々なことを考えながら授業を聞いてください。授業中は書き写したり、覚えたりするための時間ではなく、自分の考えを膨らませるための時間にしてほしいと思います。

Q. テスト勉強はどうしたらいいの？

A. 家での学習は担当の先生から与えられたワークなどの、宿題をきちんとしておくことが大切です。あれこれと色んなワークを新しく買うよりも、学校のワークを1冊しっかりとやりこんでみましょう。

勉強が苦手な人がテスト勉強をするときに大切なことは、授業で学習した理科の重要語句を中心に覚えることです。また、実験した学習内容を復習することも大切です。実験に使った道具や薬品の名前、実験中にしてはいけない危険な行為、実験結果から分かったことなどをプリントやノートを見直して復習しておく、試験の点数は必ず伸びます。

☆テストではこんな問題が出ます！

「〇〇が△△に変化する理由を答えなさい」

「この実験で〇〇という作業をするのは何のためでしょう」

「実験後、この物質はどのように変化しましたか」

テスト前の勉強は、事前に与えられたプリントやワークを中心に、少なくとも2回は解き直しをしましょう。勉強の仕方のコツは、1度自分で解いてやり直しをした後、間違えた問題にチェックをつけて、次に解くときは答えを隠し、チェックのついた問題だけを解き直しすることです。弱点克服のためには何度も練習しましょう。

※テストは授業で学んだ

ことが出るに決まっている！！

